

ひつじさる やぐら

福井城坤櫓復元プロジェクト



坤櫓・本丸西側土塀 復元イメージ

福井県では、明治初期まで福井城本丸の南西角にあった坤櫓（ひつじさるやぐら）や本丸西側土塀の復元を進めています。

坤櫓等の復元

県では、福井城址の歴史的価値や魅力を高めるため、これまで、平成20年に「御廊下橋」、平成30年に「山里口御門」の復元整備を行いました。

現在は、坤櫓や本丸西側土塀の復元を進めており、令和11年度の完成を目指し、令和7年度から復元工事に着手します。

坤櫓復元後は、福井駅から見えるようになります。



復元イメージ（福井駅の駅前広場から見える坤櫓）

復元の概要

【事業概要】

事業費 39.6億円
事業期間 令和5年度～令和11年度（予定）

【坤櫓】

木造、3層、高さ16m（往時の規模を再現）

【本丸西側土塀】

高さ2.5m、延長106m

【復元の考え方】

復元にあたっては、福井城址の歴史的価値を踏まえ、県都のシンボルとなるよう、古写真等の史料に基づいて、可能な限り往時の姿を体感できる復元を目指します。



坤櫓 室内整備イメージ

福井城坤櫓の復元

福井城とは

福井城は、徳川家康の次男で、福井藩初代藩主の結城秀康によって、慶長11年(1606)頃に築城されました。
徳川家康が自ら城の縄張を行ったとも伝えられている四重五重の水堀に囲まれた平城で、当時は高さ約30m、4層5階の壮大な天守がそびえていました。
天守は、寛文9年(1669)の大火で多くの櫓や城門とともに焼失し、以降再建されなかったものの、櫓や城門はその後再建され、明治初期まで福井藩の象徴となっていました。
明治以降、櫓や城門は取り壊され、四重五重の水堀も徐々に埋められましたが、本丸の石垣と内堀は400年以上たった今もほぼ形を変えることなく現存しています。



「福居御城下絵図」(松平文庫 福井県文書館保管)

ひつじさるやぐら

復元する坤櫓

坤櫓は、幕府役人や藩主による城下の物見のほか、書物や証文の保管場所として使用されていた記録が残っています。
寛文の大火による焼失後に再建された坤櫓は、3層5階建てで代用天守としての役割を担っていたと考えられています。



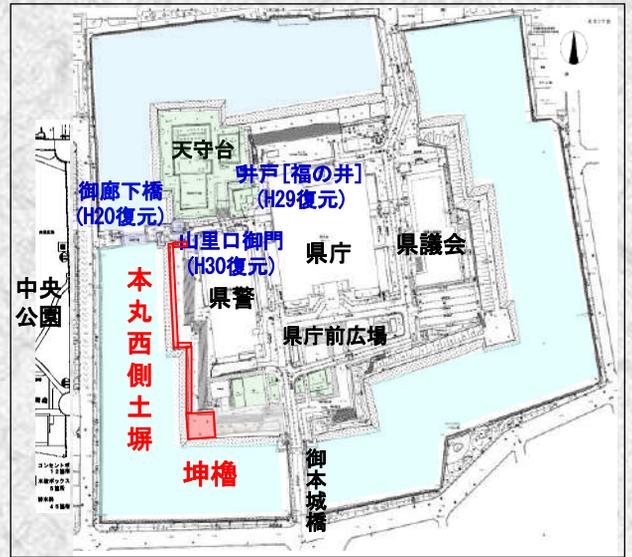
(県庁敷地より)

坤櫓・本丸西側土塀



(中央公園側より)

復元イメージ



位置図

復元に対する寄附の募集について

福井城櫓等復元募金推進委員会(事務局:福井県交通まちづくり課)では、櫓等の復元を応援していただく募金を募集しています。

寄付をいただいた方には、福井城ゆかりの記念品を進呈させていただきます。

※募金は所得税等控除の対象となりませんのでご了承ください。

また、福井県ではふるさと納税による寄付を受け付けています。

寄付の使い道に「福井城の櫓の復元を応援!」を指定してご寄付ください。

※ふるさと納税の返礼品の進呈は、福井県外在住の方に限ります。



募金記念の御城印 福井城オリジナル御城印帳



募金の詳細はこちら
(福井県HP)



ふるさと納税
お申し込みはこちら
(ふるさとチョイス)

福井城坤櫓の復元に関するお問い合わせ

福井県 未来創造部 新幹線・交通まちづくり局 交通まちづくり課
〒910-8580 福井県福井市大手3丁目17-1 福井県庁4階
TEL 0776-20-0724 メール kotsuka@pref.fukui.lg.jp